

第4学年1組 音楽科学習指導案

1 題材名 拍の流れによってリズムを感じ取ろう

教材名 歌唱「いろんな木の実」 中山知子 日本語詞 西インド諸島民謡 加賀清孝 編曲
音楽づくり「言葉でリズムアンサンブル」
歌唱「風のメロディー」 平野祐香里 作詞 鹿谷美緒子 作曲

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- A 表現 (1) ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
(2) ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて音を合わせて演奏すること。
(3) ア いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。
- [共通事項] ア (ア) 音色 リズム 拍の流れ フレーズ 音の重なり
(イ) 反復 問いと答え 変化

(1) 題材観

本題材では、これまで身に付けてきた拍の流れや拍子、リズムに対する感覚や音楽の仕組みを手がかりに、それを表現するための能力をより一層伸ばしていくことをねらいとしている。

「いろんな木の実」で、ギロやクラベスなどのラテン楽器の特徴的なリズムパターンに合わせて歌う楽しさを味わったり、「言葉でリズムアンサンブル」で、音楽の仕組みを生かしながら4文字の言葉のリズムを組み合わせて、言葉によるリズムアンサンブルをつくったりする学習をする。また、拍子として、3年生までに学習してきたものに加えて、新たに8分の6拍子を学習し、「風のメロディー」を教材にして、8分の6拍子特有のゆったりと揺れる、柔らかい表情を味わいながら拍の流れを感じ取って歌唱表現する。




ここで特に焦点をあてる、リズムを使った音楽づくり・創作は、小中学校一貫して行われている。具体的には、短いリズムをつくり、それを反復したり組み合わせたりする活動や、構成を工夫してまとまりのある音楽をつくる活動が挙げられる。

本校の児童は、音楽科の学習にはとても意欲的に取り組む。歌唱、器楽ともに、じっくり練習を積み重ねている姿が見られ、楽譜も少しずつ読むことができるようになってきている。そ

の反面、簡単なリズムや旋律などを即興的につくったり、つないだりすることはできるが、グループで、音を重ねたり音楽の仕組みを生かしたりしながら、見通しをもって音楽をつくる経験がない。そこで、これまで常時活動として扱ってきた、リズム譜を使ったリズム打ちや、言葉の自然なリズムを生かした「リズム遊び」の積み重ねを基にして、打楽器のリズムを重ねたり、音符に置き換えたリズムに言葉をあてはめてリズムアンサンブルをつくったりすることで、音楽づくりを通じて友達と関わりながら、自分の思いや意図が表現できるようにしていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態 (男子10名 女子16名 26名)

音楽の学習には意欲的に取り組む児童たちである。リコーダーや歌唱表現は時間がかかるが、じっくりと取り組む。楽譜を少しずつ読めるよう手立てをとってきた。拍打ちで自己紹介をしたことがある。5人ほど拍にのれなかった。

＜質問＞ 次のリズムを打つことはできますか？	打てる	打てない
① 	46%	44%
② 	92%	8%
③ 	73%	27%

＜考察＞

四分音符のみであれば、多くの児童がリズムを読むことができる。二分音符や八分音符になると、リズムを読むことができる児童が減少する傾向にある。このことが創作意欲の低下につながらないようにしたい。音符で表記すると難しくとらえてしまうリズムも言葉のもつ自然なリズムを生かすことで、誰もが簡単にリズムをつくり、くり返しや変化などの構成を工夫することで、さまざまな音の重なりを表現できる楽しさ、面白さを味わわせたい。

(3) 指導観

本教材で、くり返しや変化などの音楽の仕組みを生かして言葉のリズムアンサンブルをつくっていくことで、言葉がもつ語感やリズムの面白さを感じ取ることができると思う。まず、学級全体でリズムアンサンブルをつくり、つくり方や工夫の仕方を確認したい。つくったリズムアンサンブルをみんなで楽しみながら、くり返しやリズムの組み合わせのおもしろさなどに気づかせたい。つくったリズムアンサンブルを掲示しておくことで、個人やペアでリズムアンサンブルをつくるときにも振り返りながらつくりたい。また、児童がアンサンブルをつくる際には、リズムごとに色の違う付箋を使うことによって、くり返しや音の重なりなどを視覚的に捉え、試しながら活動を進めていくことができると思う。

また、一つの言葉を素材として、そのリズムを拡大、縮小させたりして、拍の流れにのって言葉を唱えることができるようにしたい。そのため、自分たちで手を打ったり、リズムボックスやメトロノームなどを使ったりしながら言葉を唱えることで、常に拍を意識することができるようにしたい。

音楽づくりの活動では、それぞれの作品のよさを認め合ったり、互いに意見を交わしたりする場面が大切になる。そのため、自分の思いを伝えたり、友だちの考えを聞いたりできるように2人組のペアで活動させたい。友達とリズムをつないだり、同時に唱えて重ねたりして、つくる楽しさを味わわせたい。

3 題材の目標

- 拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって表現する。
- リズムの組み合わせを工夫したり、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたりして言葉のリズムアンサンブルをつくる。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>①リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌ったり、演奏したりする学習に取り組もうとしている。</p> <p>②言葉のリズムやその組み合わせ、音楽の仕組みに興味・関心をもち、即興的に表現したり、友だちとリズムアンサンブルをつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③8分の6拍子の特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>①言葉のもつリズムを聴き取り、拍の流れを感じ取りながらリズムを拡大したり、縮小したりして組み合わせ、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくり、どのような音楽をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。</p>	<p>①友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによって、リズム伴奏を演奏している。</p> <p>②リズムの特徴を理解し、拍の流れによって、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくっている。</p> <p>③発声や発音、フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。</p>

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

友達と音を合わせて音楽を楽しむためには、拍の流れを感じ取り、拍の流れに合わせて演奏することがとても大切である。児童は、小学校6年間を通して、拍に合わせてリズムを打つ活動や、短いリズムをくり返したり組み合わせたりして音楽をつくる活動、リズムアンサンブルや打楽器によるリズム伴奏など、繰り返し経験していく。しかしながら、高学年になっても、音符からリズムを捉えることは難しく、多くの児童が耳からの聴取に頼っている現状がある。また、自分がつくったリズムを打って表現することはできても、音符で表すことのできない児童も多い。中には、拍子や拍を意識せずにリズムを捉えているため、友達や伴奏と合わなかったり、また、それに気付かなかったりする児童もいる。本教材では、言葉によるリズムを音符に置き換えながら活動を進めることで、リズム（児童が聴取しているもの）と音符（視覚的なもの）を一致させ、拍の流れを感じ取りながらリズムを打つことができるようにしていきたいと考える。そのため、常時活動として、リズム譜を使ってのリズム打ちや、拍の流れによって足踏みをしながらのリズム打ちを行うことで、音符を読むことや拍の流れによってリズムを打つことに慣れていくようにしたい。

また、反復、問いと答え、変化など、音楽の仕組みを生かして音楽をつくっていくことも、低学

年の頃から行ってきたことではあるが、小学校6年間を通して繰り返し経験していく中で定着を図っていく必要があると考える。本時では、前時までに学級全体でつくったリズムアンサンブルに、音楽の仕組みの他に児童が考えたことや感じたことも書き入れて掲示しておくことで、内容の振り返りとしても、アンサンブルをつくる際のヒントとしても活用できると考える。

こうした経験を重ねていくことが、自分の思いを音楽で表現できるようになったり、より複雑な音の重なりを聴き取り、音楽の構造を理解しながら創作したり、楽曲の構造や音楽の仕組みのおもしろさに気付きながら音楽を鑑賞したりすることにつながっていくものと考えている。

6 指導計画

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一 次	1	ねらい 拍によって歌と打楽器を合わせて演奏することができる。	
		○「いろんな木の実」を歌う。 ・旋律の特徴や打楽器のリズム伴奏の面白さを感じ取りながら歌う。	リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌ったり、演奏したりする学習に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度①)
	2	○歌と楽器を合わせて、拍の流れによって演奏する。 ・歌とリズム伴奏を合わせて全員で演奏する。	友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによって、リズム伴奏を演奏している。 (音楽表現の技能①)
第二 次	3	ねらい 繰り返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくることができる。	
		○4文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりして、リズムアンサンブルをつくる。 ・学級全体でリズムアンサンブルを考える。 ・一人ひとりリズムアンサンブルをつくってみる。	言葉のリズムやその組み合わせ、音楽の仕組みに興味・関心をもち、即興的に表現したり、友だちとリズムアンサンブルをつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度②)
	4 (本時)	○ペアで2つのパートに分かれ、リズムアンサンブルをつくる。 ・くり返しや変化を使って8小節のリズムアンサンブルをつくる。	言葉のもつリズムを聴き取り、拍の流れを感じ取りながらリズムを拡大したり、縮小したりして組み合わせ、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくり、どのような音楽をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫①)
5	○ペアでリズムアンサンブルをつくる。 ・つくったリズムアンサンブルを発表し、聴き合う。	リズムの特徴を理解し、拍の流れによって、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくっている。 (音楽表現の技能②)	

第三次	6	ねらい 6拍子を感じながら歌うことができる。	
		○「風のメロディー」を歌う。 ・曲想をつかみ、8分の6拍子の特徴を感じ取る。	8分の6拍子の特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって歌う学習に進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度③)
	7	○旋律の音の動きを感じ取り、拍の流れにのって歌う。 ・語感を大切にし、言葉をはっきりと発音して歌う。	発声や発音、フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌っている。(音楽表現の技能③)

7 本時の学習 (4/7)

(1) 本時の目標

○2つのパートに分かれ、くり返しや変化を使って8小節のリズムアンサンブルをつくる。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法)
5分	1 「いろいろな木の実」を歌唱する。 ・打楽器隊と歌唱隊に分かれて演奏する。	○拍の流れにのって歌唱することを確認する。
2分	2 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">くり返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくりましょう。</div>	
8分	3 前時につくったリズムアンサンブルを演奏する。 ・前時につくったリズムアンサンブルのくり返しや変化について確認し、それぞれの感じを確かめる。 ・リズムアンサンブルをどのように工夫するか確認する。	○前時につくったリズムアンサンブルの拡大譜を見せながら、反復や変化などによって音楽の感じがどのようになるか、確認する。 ○くり返しを使ったり、途中で変化させたりして、8小節のリズムアンサンブルを工夫してつくることを確認する。
25分	4 ペアでリズムアンサンブルをつくる。 ――― (前時まで決めておくこと) ――― ・表現したいテーマ ・4文字の言葉 (例) あげパン やきにく からあげ わたあめ やきとり みずあめ	○2人組(ペア)を事前につくっておく。 ○2つのパートに分かれるよう伝える。(1人はAパート、もう1人はBパート) ○くり返しや変化を考えていくように伝える。

〈リズムアンサンブルの工夫例〉

◇1小節目から4小節目はくり返しを使い、5小節目から8小節目は問いと答えを使おう。

◇くり返しがたくさんあるとおもしろそうだからたくさん入れよう。

〈つくったリズムアンサンブルの例〉

4	や	き	と	り	・	・	・	・	や	き	と	り	・	・	・	・						
4	・	・	・	・	や	き	と	り	・	・	・	・	や	き	と	り						
	や	き	と	り	・	・	・	・	や	き	と	り	や	き	と	り	・	・	や	き	と	り
	・	・	や	き	と	り	や	き	と	り	・	・	や	—	き	—	と	—	り	—		

・つくったリズムアンサンブルを練習する。

・中間発表をする。

〈例〉

	くり返し																				
4	や	き	と	り	・	・	や	き	と	り	や	き	と	り	・	・	や	き	と	り	
4	・	・	・	・	や	き	と	り	・	・	・	・	・	・	・	や	き	と	り	・	・

くり返しを使っている、リズム感があっていいね。問いと答えにもなっているよ。

4	や	—	き	—	と	—	り	—	や	き	と	り	・	・	や	き	と	り			
4	や	き	と	り	や	き	と	り	や	き	と	り	・	・	・	・	・	や	き	と	り

違うリズムが重なっていておもしろいね。

音がなくなって終わったのかと思ったよ。

5分

5 本時の振り返りをする。

- ・友だちのくり返しの工夫がわかりました。
- ・リズムを友だちと合わせたことが楽しかったです。
- ・リズムをつくることが大変でしたが、面白かったです。

○自由な発想でつくらせていく。

○発想が出てこない場合には、パターン化したくり返しや変化を押しえさせていきたい。

○くり返しや変化を使っているか確認し、支援をする。

○ひざを打ったり、手を打ったりして、拍を打ちながら練習するように声をかける。

○考えが停滞しているペアに良い点を述べさせ、次の活動の視点を確認する。

◆言葉のもつリズムを聴き取り、拍の流れを感じ取りながらリズムを拡大したり、縮小したりして組み合わせ、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくり、どのような音楽をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。

(音楽表現の創意工夫①)

〈観察・ワークシート〉

○本時に考えたことや悩んだことなど感想を書き、発表するよう指示する。